

# 事業報告令和6年度 教育事業 「信州高遠ボランティア養成研修」

【対象】高校生・大学生・社会人  
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

## 1. 趣旨

青少年教育施設のボランティアの役割を理解し、必要な知識・技能を習得する。自然の中で活動する楽しさを味わい、仲間と協働した学びあいから、ボランティア活動に対する意欲を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

## 2. 事業の概要

(1) 期日 令和6年6月1日(土)～2日(日)

(2) ①参加者 40人

②内訳 高校生10名、大学生28名、社会人2名

(3) 日程

6/1 (土)	10:10	10:30	10:50	11:50	12:40	14:10	14:20	16:20	16:30	17:00	17:20	18:00	19:00	21:00	22:00
	受付	開 会 式	自然の家 ってど んな とこ?	昼 食	ボラン ティア の 役割 とは	昼のプログラムを 体験してみよう		青 少 年 ①	つ ど い	夕 食	青 少 年 の 今②	夜 の プ ロ グ ラ ム を 体 験 し て み よ う	入 浴	就 寝	
6/2 (日)	7:00		7:20	8:00	9:00	12:00		13:00	15:00		15:30				
		つ ど い	朝 食	清 掃	安全 管理 の 知 識 と 技 能 を 身 に 付 け よ う		昼 食	信 州 高 遠 の ボ ラ ン テ ィ ア に つ い て 学 ぼ う		閉 会 式	解 散				

### (4) 企画運営のポイント

- ・経験豊富な講師をお招きし、事業の趣旨や当施設の特徴を踏まえた上で、多様な自然体験活動を実施する。
- ・普通救命法に代えて、危険動植物への対応や KYT トレーニングなどの、実際の活動で身に付けておくべき知識・技能を習得する時間を増やす。
- ・法人ボランティアから新規ボランティアに向けて、ボランティアの活動やその魅力を発信する場を設けることで、新規ボランティアがボランティア活動について知り、活動への参加の意欲を高める。

### (5) 参加者の声 (一部抜粋)

<趣旨に関する質問>

「ボランティアの役割とはどのようなものだと考えますか？」

- ・地域に密着し、子どもの可能性を広げるのを手伝う役割。
- ・自分たちの自発的な慈善活動で、地域社会に必要なもの。
- ・子どもたちとの関わりを通して自分自身が成長したり、自然体験の大切さを知ってもらったりすること。
- ・自然と子どもをつなぐ役割であると思う。また、子どもの成長をサポートしたり、心に寄り添ったりと学校以外の場で子どもを教育し、支える立場もあるのだと思った。

「今回の研修を受けて、社会に貢献できる(役立たせることができる)と思ったことを教えてください。」

- ・人手不足の中、子どもの体験の経験の差を少なくすることができると思った。
- ・周りの人とうまく協力して行動すること。主体性のある問題解決ができるようになること。向上心をもって物事に取り組めること。
- ・熱中症や救急時の対応方法を詳しく学べたので、実際にそういった場面に遭遇した際に役立たせることができる。
- ・子どもの未来をつくるお手伝いだけでなく、子どもたちにその地域を好きになってもらうことができるような活動。

<各プログラムについて>

- ・青少年教育の役割について、学校教育・家庭教育とも比較しながら特徴を理解することができた。自分もボランティアとして地域で活躍できるような人材を目指していきたいと思った。
- ・自然を体験して、楽しみながらも自分を見つめる機会にもなって、とてもよかった。
- ・子どもたちの安全を確保する大事さと、これから身に付けていかなければならない力を教わることができた。
- ・熱中症のメカニズム、対処法について学べた。また、水分だけでなく、電解質・筋肉の重要性も理解できた。
- ・現役の方のリアルなお話を聞いて、自分がボランティアに行った時の具体的な想像が膨らんだ。きっと大変なことや悩むこともたくさんあると思うが、それ以上に自分をもっと成長させたいという思いが強くなった。
- ・高遠ボランティアの皆さんの温かさや、仲の良さが伝わってくるような発表で、ここでのボランティアの参加してみたいという気持ちが大きくなりました。

<活動の様子>

【ボランティア活動の技術①】



【ボランティア活動の技術②】



【ボランティア活動の技術③】



【ボランティア活動の技術④】



【ボランティア活動の意義】



【安全管理】



【安全管理】



【青少年教育施設におけるボランティア活動①】



【青少年教育施設におけるボランティア活動②】



(6) 成果と課題

①参加者アンケート結果 アンケート回収 29 名 (回収率 72%)

ボランティア養成研修全体を通して	満足 : 20 名	69 %
	やや満足 : 7 名	25 %
	やや不満 : 1 名	3 %
	不満 : 1 名	3 %

## ②成果

- ・ここ数年で初めて定員 40 名に達する中での開催となった。複数のチラシ送付先に直接出向いて広報したことやこれまでの現役ボランティアの活動の積み重ねが、このような結果につながったと感じている。
- ・幅広い年齢層の参加があったため、普段関わるできないような人とも意見を交わすこととなり、参加者にとって多くの学びを提供することができた。
- ・様々なプログラムやグループでの話し合い、アンケートから、参加者（新規ボランティア）は事業の趣旨にある「ボランティアの役割」や「社会に貢献できること」について、それぞれの考えをもち、深めることができた。
- ・参加者アンケートから、現役ボランティアの声やボランティアの実際に触れることができたのは、参加者にとって有意義であったことが分かった。次年度以降も方法を工夫しながら、同じような機会を作っていきたい。

## ③課題

- ・参加者アンケートに「やや不満」「不満」があったことは、次年度への反省材料としたい。天候の影響もあり、講義形式の研修時間が長くなったことや、人数が多かったことで全体への目配りが不足していたところがあったのではないかと考える。
- ・参加者のほとんどが新規ボランティア登録を行った。その分、ボランティアとしての活躍の機会や経験の場をいかに提供していくかが重要になる。7～9月の教育事業の中止が決まった中で、一つ一つの教育事業の内容とボランティア活動の質を向上させることが求められる。